

1987 (毎月1回行)

12月号

(村の面積)

332.60km²

発行所 福井県大野郡和泉村

広報 いずみ

(昭和62年12月1日現在)

村の人口	
総人口	976人
男	490人
女	486人
出生	3人
死亡	0人
転入	0人
転出	12人
世帯数	310世帯



祝 油坂峠道路が一部開通

11月18日本村と岐阜県白鳥町を結ぶ、国道158号の油坂峠道路の第1工区(2,095延)が完成し、開通式が本村東市布で行われました。

式には両県の関係者をはじめ建設省、地元選出国會議員など160人が出席して開通を祝いました。

これで道幅が狭く、急こう配、急カーブが続く交通の難所もほとんど解消され、一部が「中部縦貫自動車道」(松本—福井間231キ)に組み入られるなど、観光開発・産業の活性化に大きな期待が寄せられています。

みんなで越美北線を利用しよう

村も高速化の時代へ突入

五十六年から建設省直轄で工事が進められている油坂峠道路は、三つのトンネルと六つの橋を抜ける総延長五千六百メートルで、今回完成した第一工区(二千九十五メートル)は峠の約七十メートル下千七百六十メートルの油坂第一トンネル(越美通洞)を掘り、百六メートルの大藤路橋が設けられるなど、四十六億円の巨費がかけられました。

同道路は国の高規格幹線道路「中部縦貫自動車道」(松木―福井間)に組み入れられるため、現国道を拡幅した四百二十三メートルを除く千六百七十二メートルは自動車専用道路として使用されます。

このため歩行者や百二十五cc未満の二輪車は通行できませんので、旧国道を使うこととなります。



▲分岐点 左が旧国道



▲岐阜県側 上に見えるのが旧国道



▲約100台の車が祝賀パレード

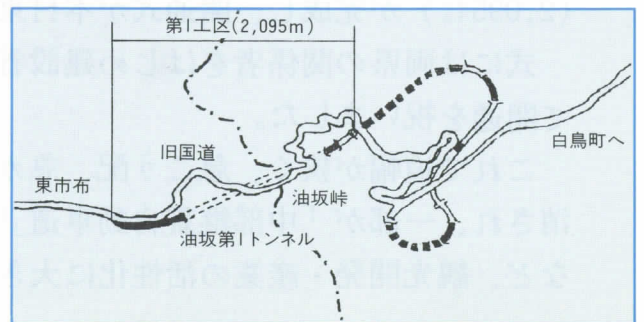
1月10日 「110番の日」

落ち着いて 伝えたいことを正確に

- 何があったのか
- いつ、どこで
- 状況は
- 犯人は
- あなたの住所・氏名

高規格幹線道路とは

時速八十キロ程度の高速通行が可能な信号のない自動車専用道路のことです。建設省が六十二年夏に発表した新しい構想の全国自動車専用道路網。





九頭竜スキーセンター ヨーロッパアン風に12日オープン

十二日、九頭竜スキー場にヨーロッパアン風、時計台付屋根の九頭竜スキーセンターがオープンしました。

同センターは事業費一億四百五十万円、鉄骨二階建て、延べ七百三十九平方メートル、窓はゲレンデが一望できる開放型となっています。

一階には管理事務所・リフト券売場・ロッカー室・トイレ

村農産加工研究会 “穴馬の四季漬”特賞に輝く

アイデア加工食品コンクール

一般から募集したアイデア加工食品コンクールの表彰式が一日、丸岡町の県食品加工研究所で行われ、村農産加工研究会（代表 新屋芳江）の作品「穴馬の四季漬」が見事コンクールの特賞に輝きました。

これは、食品開発の拠点として、同町坪の内に建設され

た食品加工研究所の開所式に伴い一般から募集したものでコンクールには県内の生活改善グループなどから六十七件の応募作品がありました。

その中で、四季を表わすよ

うな漬物シリーズとして、季節の山菜や野菜を活用して工夫を凝らした「穴馬の四季漬」が高く評価されました。

山岸金次さん(上天納)に 勲六等瑞宝章

昭和六十二年度秋の生存者叙勲において、上大納の山岸金次さん(六十二歳)に勲六等瑞宝章が授与されました。

山岸さんは、二十一年下穴馬村警防団第五分団入団以来五十八年大野地区消防組合和泉消防団副団長で退任するまで、住民の生命を第一に考え災害救助活動に尽力されました。

また永年にわたり防火思想の普及や消防団員の資質向上にも貢献されました。



喜びの山岸さん

春 新緑漬

新緑を表わすために、うど・わらび・こごみの緑を活かし、しょうゆ・みりん・さとうをませ合せ調味液につけた歯ぎれのよい春の味。

秋 紅葉漬

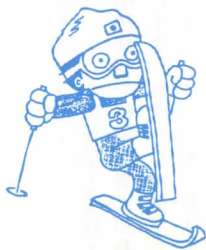
みょうが・きくらげ・食用菊・自然薯等を三はい酢で合せたもので、食用菊の黄色と、もみじの葉の形に切った自然薯にみょうがの赤さが調和して食よくをそる。

夏 水ぶきの酢漬

水ぶき・スイートコーン・干しいたけ・しょうがなどをごま油でいため、調味液を加え沸とうさせた後、赤とうがらしを加えて中華風でスタミナのある味。

冬 穴馬かぶらの重ね漬

一日ほど塩漬した穴馬かぶら・白菜に、人参・味付たら・塩こんぶなどを交互に重ね、みりん・しょうゆ・んにくとうがらし等で漬け込んだ寒い冬のスタミナ料理。



痴呆性老人に対する

誤解と偏見をなくそう

メカニズムと
介護法を知る

かつて「恍惚の人」という小説がベストセラーになり、最近では「花いちもんめ」という映画が賞をとりました。これはいずれも老人の痴呆をテーマにしたものです。

高齢化社会の到来に伴い、老人の痴呆は他人事とは言いついての情報が乏しく、痴呆性老人に対する誤解や偏見はいまだに根深く残っています。

人生八十年時代を迎え、わたしたちは痴呆についての正しい知識を身につけておく必要があるといえるでしょう。

ここでは、痴呆の症状や特性をみながら、介護の基本や痴呆の予防について考えてみました。

ボケと痴呆は 発生原因が異なる

だれでも年をとれば、物忘れが多くなるものです。これは脳の老化に伴う現象で、病的なものではありません。よく物忘れをした老人が、冗談まじりに「ボケてきたかな」と言うのは、こうした老化現象による記憶力の低下が原因です。

これに対して痴呆とは、脳の後天的な障害によって、いままでの知能などが比較的短期間のうちに低下し、日常生活に支障

をきたすようになることをいいます。脳の後天的な障害とは脳卒中などの傷病のことで、老化現象が原因のいわゆる「ボケ」

三十年後には百八十五万人に……

昭和六十一年までに全国の四十都道府県および六政令市が、在宅痴呆性老人の調査を行つています。この結果、高齢になるほど痴呆性老人は増え、八十歳を超えるとほぼ五人に一人の確率で痴呆があらわれることがわかりました。

また、この調査をもとに推計した現在の痴呆性老人の数は、全国で約六十万人。これが十五年後には百二十万人、さらに三十年後には百八十五万人に増えると予想され、今後の対策が急がれています。

まわりの人が 特徴を知ろう

ごはんを食べ終わつたとたん「ごはんはまだか」といったり突然わけの分からないことを叫びだす——痴呆性老人は普通の感覚では理解できない言動をとります。これは痴呆性老人の記憶力、理解力、判断力といった知能が低下したために起こるものです。

このほかにも、痴呆性老人には、次にあげるようないくつかの共通する特徴があります。家族の皆さんやまわりの方は、まずその特徴を知つて



もう一つの特徴は、最近の出来事よりも昔の出来事のほうに忘れにくいという事です。思

くください。そして、そのような行動を奇異に思わず、理解してあげることが家族として、また介護する上でとても大切になってきます。

▽自分の言ったことを、すぐ忘れる

▽何か行動を起こそうとしても、どうしたらいいのかわからない

▽自分がどこにいるのか、だれ

なのか分からない
また、これらの特徴と並行して、精神状態や行動に異常があらわれます。知能などの低下を「主症状」といい、次にあげるような行動を「副症状」と呼んでいます。

▽精神症状Ⅱ幻聴、幻覚、被害妄想などが起こり、だれもいないのに話しかけたり、おこりだしたりする
▽行動の異常Ⅱ徘徊や失禁、便

をもてあそぶなどの行動をする

どの記憶はしっかりと残っていても、最近のことはすぐ忘れてしまいます。現在一緒に暮らしている家族の名前を忘れてしま

い、すでに死んでしまった人の名前を呼んだりするのも、この特徴のあらわれです。

つまり、痴呆性老人は、遠い過去の思い出の世界と現在の区別がつかなくなっているといえるでしょう。

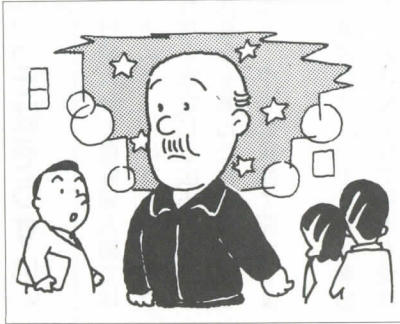
●介護する人へのアドバイス● 心を理解することから始まる

過去の思い出の世界や幻想の世界に生きている痴呆性老人ですが、すべての機能を失っているわけではありません。恐怖感、焦燥感、孤独感などの感情機能は、比較的保たれていることが多いのです。例えば、まわりの人間が叱ったり、とがめたりすると、本人の感情に極度の緊張を与えらるることになります。被害を受けたという「しこり」を心に残すこともあり、後々の行動にも悪影響を及ぼしかねません。

感情は

生きこころ

痴呆性老人に接する上で大切なことは、「患者のあるがままの



姿を受け入れる」という姿勢です。家族やまわりの人は、本人が正常な状態であった時と比較して、とかく説教などをしがちになります。またかつてその人がどのような生活をしてきたのか、どんな性格なのかを踏まえて接するこ

とも重要なポイントです。人間としての尊厳を認め、温かい目で見守ってあげたいものです。

●予防● 食事や運動で

いったん痴呆性老人になっしまつと、その進行を遅らせることはできても元どおりにすることはできません。そうならな

ころ予防のほどこしようがありませんが、脳血管性痴呆は、主に脳卒中などが原因となるため予防は可能です。

日常生活の食生活や運動量をもう一度チェックしてください。食生活では塩分を控える、脂肪の多い食品を取りすぎないなど、成人病を防ぐような食事を心がけましょう。また運動は、急激に始めるのはかえって逆効果です。自分のペースでゆっくりとしかも持続させることが大切で

しよう。

脳も体の一部です。使わなければ衰えるため、適度な刺激を与え続けることも必要です。ピアノを弾いたり、若い人とおしゃべりしたりするのも、広い意味で予防の効果があるといえます。痴呆が進んで手遅れにならないようにするためには、痴呆の兆候を早くみつけ、治療することも大切です。「ちよつとおかしいな」と思ったら保健所、専門医などに相談してください。

異常行動の例と対策

例1

大便を運び出す A子さん

Aさんは家族と同居している痴呆性老人です。体の機能は劣っていないため、水洗トイレを使って用を足すことができますが、時々、自分の大便を手にとってトイレから運び出す行動を繰り返し行います。家族がきつく叱つても治りません。

＜対策＞ Aさんの行為は、家族に叱られるという恐怖心から生まれた問題行動です。最近の記憶がとだえがちなAさんには、昔の肥えだめ式

のトイレが頭にあり、水洗トイレは便を水で流すということが理解できなくなつていいます。ですから、便器の中に自分の便が残っていると、どうしていいのか分からなくなることがあるのです。このため「始末しなければ家族に叱られる」という恐怖感がつり、便を隠そうとします。

このような場合、水洗トイレの正しい使い方をていねいに、繰り返し教えたり、内側を茶色にしたり、便座から立つと自動的に水が流れるようにするなど、便器の工夫をすることが必要です。また、どんな行動をとつても決して強

例2

かつての経験に 着目

く叱つたりしないで、家族の一員として愛情をもって接する姿勢をもち続けることも大切なのです。

かつて中学校の校長先生を勤めたこともあるBさんは、脳の障害から痴呆性老人に。痴呆の進行がひどく、在宅看護ができなくなったため、家族は仕方なく病院へ入院させました。しかし病院に入つてからも、症状は悪化する一方。騒いだり暴れたりする毎日で

した。

＜対策＞ 医師は、かつて教師を勤めていたBさんの経歴に着目しました。そこで、病院内で騒いでいる他の患者さんを生徒に見立て、Bさんになだめてもらうように頼みました。するとBさんは、病院内をまわりながら騒いでいる人を見かけると「静かにしましょう」と、逆に人を指導する立場になり、騒いだり暴れたりすることもなくなりました。このように、かつての生活歴を踏まえ、そのよい点を引き出していくというのも、痴呆性老人の介護のポイントの一つです。

「そばぞうすい」に人気

カブラ料理講習会

村婦人会と農協婦人部では、バラエティーに富んだカブラ料理を家庭にも広めようと、試食会を兼ねた料理講習会を九日、中央公民館で開催しました。

講習会には二十三名が参加、天谷調理師学校で指導を受け

たカブラ料理四品にチャレンジしました。

このあと、生協など流通関係者を交じえた試食会が行われ、中でも「そばぞうすい」の評価が高く、これからの季節と合わせ人気を呼びそうです。



除雪にぜひ協力を！

- 冬期間中の除雪作業を能率的に進めるため、次の事項を充分認識していただきご協力をお願いいたします。
- 路上駐車は絶対にしないこと。
 - 道路わきの待避所などにおける障害物は撤去。消火栓・水道栓などには標識を立てること。
 - 除雪作業中は、除雪車に近よらないこと。
 - 自動車などで除雪車を追い越しするときは、運転者が確認をしてから追い越しをすること。
 - 道路へ雪を出す場合は、除雪車が来る前にし、除雪作業中は出さないこと。
(道路に面している家の屋根雪おろしなどは、各地区で日をきめて行ってください。)
 - 夜、または早朝歩くときは、必ず懐中電灯をとすこと。
- ④注 ゴミをだすときは、除雪作業の妨げにならないように、除雪が終ってからだすように注意してください。

節水についてお願い

水道水は融雪等に使用しないようご協力をお願いします

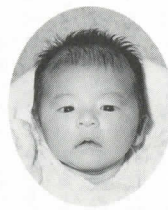
人のうごき(敬称略) 十一月届出分

▲あかちゃん

名	前	保護者	続柄	住所
加藤	祐樹	公典	二男	朝日
久保田	美穂	清二	長女	貝皿
新井	誠	一藤	長男	川合



誠 くん



美穂ちゃん



祐樹くん